

# 夢つむぐ島

～島人みんなで織り上げる未来～

## シリーズ3. 「学ぶ」世代のために

### <島の現状と施策の方向性>

教育環境の充実、子育て環境の充実同様、島の子育て世代にとって最も重要な要素のひとつです。また、昨今ニュースや雑誌で「教育移住」という言葉が多くみられるとおり、移住促進策の柱のひとつでもあります。豊かな自然の中で子育てをしたい、同時にしっかりとした教育も受けさせたい。そう考え移住先を探す家族も少なくありません。

現在、島内には2つの幼稚園、6つの小学校と2つの中学校があり、2019年（令和元年）の在籍生徒数は小学生合計462人、中学生合計219人となっています。第2次総合計画策定におけるワーキングチーム「教育」グループで実現したいことのトップに「学力向上のための環境・支援体制づくり」があがっています。その背景には、部活動と家庭学習のバランスが悪い、家庭で子どもの勉強をサポートする親が少ない、子どもたちが夢を描ける機会が少ないため勉強する動機が薄い、などの問題があげられ、幼稚園からの規則正しい生活の習慣化、早い時期からの家庭学習の習慣化に加えて、小中学生向けの公営塾開校も検討課題のひとつです。

島で学ぶ子どもたちが夢を持ち、その実現に向けて確かな力をつけていくために、学校、家庭、地域が連携して子どもたちを支援していくこと。また生涯学習を通してすべての世代が個人の生活の充実及び、地域づくりに貢献できることを目指します。

### <計画に位置づけられた事業の成果や課題など>

#### ●中学校学習支援員配置事業（教育課）

事業内容	久米島高等学校魅力化推進事業に関連する町立中学校の学力向上支援に対し、地域おこし協力隊制度を活用した中学校学習支援員を配置し、基礎学力向上支援事業の円滑な運営に資することを目的とする。 基礎学力の向上とは自分で学び続ける力（学校を卒業した後も自分自身の力で学び、成長していける力）を身につけることと位置づけ、「①基礎知識・技術の習得及びそれを活用する力」「②自主学習習慣の確立」の2種類の学力の向上のための方策を講じていく。	
成果目標	まなびや登録者数	H30実績 西中⇒76名、球美中⇒80名
事業効果	「①基礎知識・技術の習得及びそれを活用する力」を定着させる方策とし、“授業支援”“補習”により授業をサポートすることで、より深い理解の助け、つまづきの解消、理解度に合わせた対応、学びなおし、復習・練習の機会を得ることができる。 「②自主学習習慣の確立」の方策としては、“まなびや”の開催により、授業以外で学ぶことに集中できる場所・気軽に質問できる場所の確保ができる。また、支援員と一緒に勉強方法を組み立てることで、勉強の効果を高めることができる。等により「自学自習」を促し、勉強に対する姿勢を整えることができ、勉強へのモチベーションを上げることができる。	
改善点又は今後の取組方針	いまだに少なくない生徒の「自己肯定感」の低さは、自ら課題に挑戦していくことに消極的であることが原因であると考えられる。また小学校までの学習で身に着けている「読み」や「計算」の能力が中学校の勉強レベルに達していない生徒が見られる。授業や課題を解く際に「基礎的な知識・技能」が定着していないため、解決の妨げになっていることも多いため継続的に支援が必要である。	

#### ●各種教室・講座運営事業（教育課）

事業内容	①読書の日イベント（読み聞かせ会）、②母の日・父の日プレゼントづくり教室、③夏休みものづくり教室、④平和学習会、⑤読書まつり、⑥CGG運動、⑦ヤングフェスティバル、⑧三線教室、⑨手話教室、⑩講演会等の社会教育、⑪生涯学習講座、⑫教室イベントを実施	
成果目標	講座の開催回数	H30実績⇒12回
事業効果	母の日・父の日プレゼント教室やホテル観察会などのイベント参加を通して、久米島の伝統工芸や自然環境などを知るきっかけ作りができた。ヤングフェスティバルでは町内の子どもたちが日頃から取り組んでいる成果を披露し、子どもたちの自主性や創造力の向上に繋がった。	
改善点又は今後の取組方針	イベントや教室を開催する際に学習する目的をしっかりと定めて取り組めるようにする。	